

# 日中経済交流研究会新聞 日中経済交流研究会 2024年7月訪問インタビュー



～わかっていないことをもう一度学ぼう～

開催日:2024年7月3日(水)

訪問先:昭和交易(株) 代表取締役 山元 茂弘 氏



本社所在地:大阪府大阪市天王寺区上汐

設立:1985年12月/資本金:1,000万円/年商:12億円(2023年度実績)/従業員数:●名

主要輸入国:タイ・中国・トルコ・フィリピン・アメリカ・台湾・ベトナム・カナダ・イタリア・メキシコ

事業内容:ドライフルーツ、製菓原料、内外穀物、健康食品、飼料などの輸入販売他

## 全国でもトップクラスの種類と量を取り扱う

昭和交易(株)では、ダイスカットというサイズのドライフルーツを中心に、穀物、健康食品、そしてペット用の餌などに使われる飼料などを扱っており、なかでもバナナチップの扱いは、全国でもトップクラスの取り扱い量。菓子パンや洋菓子を製造するメーカーなどに卸販売をしています。

昭和交易のルーツは、滋賀県出身の山元社長のお父様が大阪の天満で創業したこと。当初は、味付け海苔やゴマを扱う商社でしたが、後に小鳥の餌など穀物類を扱うようになり、ビジネスが成長したということです。

## 自分だけの商売をつくれ

現在の営業活動は主に展示会への出展が中心ですが、山元さんが23歳ごろに入社した当時はお父様から「今やっている小鳥の餌の商売はお前はしなくていい。お前は自分のチカラで自分だけの商売を探し出し、その商売を成長させていけ」と言われたそうです。小鳥の餌の市場はいずれ縮小していく、この先成長する市場を自らの力で見つけ出し、それを成長させていきなさいという教えだったそうです。

そうして山元さんはいろいろなところに顔を出し、いろいろな人から商売の基本を学んでいきます。そんな折、東京へ行った際に、ドライフルーツが置かれているのを見て「大阪ではまだ出てないな、これやったら大阪でポジションをとれるな」と思ったそうです。その後、取り扱うようになり売れるには売れるものの、まだ商売の基本は理解していませんでした。現金商売とかけ商売の違いが分からず、個人店などにも販売していたので、売掛金がどんどん増えていって資金が足りなくなということが起きてきたといいます。そうしたところに、ある知人の紹介で同友会を知ることになりました。

## 同友会は相談できる相手がいるところがいい

山元さんは「困っている時に相談できる人がいるのが同友会のいいところ」と語ります。

「同友会ではたくさんのことを学んでいます。そして日中に

は、海外へ進出している企業がたくさん参加されているので、海外進出に関することが学べます。できるだけいろいろな行事に参加してまだまだ勉強したいと思っています。訪中にもぜひ参加したいと思っています。数期前になりますが、コロナ禍において赤字を出してしまいました。これまで、輸入に偏りすぎていたことが赤字の原因の一つになっていたこともわかり、また、この赤字をきっかけにコストのことも含め、さまざまなことを見直すことができました。これからは輸出のビジネスにも挑戦したいと思い勉強を始めています。菓子材料販売のルートを活用し、菓子型の卸販売など新しい商材や新しい分野への進出の可能性も探っています」。

## わかっていないことは、もう一度一から学ぶ

60歳を迎え、自社ビルを取得し、新たなステージへと向かう昭和交易ですが、ビジネスだけでなく、働く環境もまた変化しています。「インフラを整備していったら自然と離職率も低くなってきました。最近では、従業員のライフワークバランスを大切にしています。休暇をとりやすくしたり、女性が働きやすい会社になったりする方が、強い会社になれると思っています。これらも同友会で学んだことです」。

一時期は朝に出社した新入社員が昼にいなかったこともあったとか。現在は離職する人がほとんどいなくなり、女性従業員の割合も年を追うごとに高くなっているといいます。

「この年になっても、海外へ進出したいと思っていますし、まだまだ売り上げも上げたいと思っています。勉強には惜しまず時間を使いたいです。今後もさらに、海外に目を向けた商売を学べる環境をつくっていきたいと思っています。知らないこと、わかっていないことは一からきちんと学んでいきたいと思うのです」。



文:日中経済交流研究会 広報委員会  
(株)ギャレークルー 合田 耕作